

園の輪

そののわ No.193

学校法人 甲子園学院



吹奏楽部第20回定期演奏会(現役部員とOGの合同演奏)

CONTENTS

〈ESSAY 2026〉…………… 2	〈学校園だより〉…………… 4～9
「じっくりみる」	幼稚園 小学校 中・高校 短大 大学
林 晃之	
〈学院トピックス〉…………… 3	学院生の活躍…………… 10
伏木亨甲子園大学栄養学部特任教授	
瑞宝中綬章 受章	
学院物故者慰霊塔参拝(高野山)	

ESSAY 2026

じっくりみる

林 晃之



植物は静かだ。大学時代、研究室に入る前の私はそう思っていた。研究室に配属され、最初にしたことは、アングルと木材を加工し、自分の実験機の上に顕微鏡観察用の装置を組むことだった。顕微鏡にビデオカメラをつなぎ、細胞の動きを解析するための装置である。今ならもっと良い方法もあるだろう。しかし、当時はそれが楽しかった。私たちが研究していたのは、オオセキシウモという水生植物であった。恩師から「じっくりみてみたら？」と言われ、葉肉細胞の原形質流動を繰り返し観た。植物は動かないように見える。しかし顕微鏡の下では、細胞の中が驚くほど活発に動いていた。いつものように細胞を眺めていると、あるとき、不思議な現象に気づいた。偶然見つけたその現象は、その後、大学院まで続く研究テーマにつながった。

研究というと、最先端の装置や難しい理論を思い浮かべるかもしれない。しかし少なくとも私にとっては、「何か変だな」と感じながら繰り返し観る、そんな地道な時間が今の研究の土台になっている。もちろん、研究は楽しいことばかりではない。思うような結果が出ず、行き詰まることもある。それでも、「オモロイから、ええやん!」という恩師の言葉には、不思議と人を前向きにする力があつた。研究に行き詰まっても、まずは面白がつてみる。今も折に触れて思い出す言葉である。初めて書いた学会要旨は、恩師の赤ペンでほとんど原型がなくなった。返却された原稿を見て愕然とした。今思えば、あれは「みる」ことだけでなく、「見せる」ことの大切さを教わっていた時間だったのだろう。恩師から学んだことは、研究そのものにとどまらない。「喉が渴いた!」と研究室で飲み始め、そのまま夜遅くまで話し込むこともしばしばだった。そうした時間の中で、研究に向き合う姿勢や、人との向き

合い方を学ばせてもらった気がする。現在、私は大学で生物学や生化学を教えている。細胞内の温度変化を「観える」化する研究にも携わっている。直接みることでできない細胞内の状態を、技術で捉えようとする研究である。研究や教育について考えるとき、結局は学生時代に教わった「じっくりみる」という姿勢に行き着く。大学では、学生からの何気ない質問に考えさせられることも少なくない。知識を得ることももちろん大切だが、「なぜだろう」と立ち止まってみること、その姿勢こそが学びの原点なのかもしれない。五十歳を過ぎても、新しい発見がある。それも難しい専門知識ではなく、日常のちよつとしたことである。長年見ていたつもりでも、今になって初めて見えてくることもある。忙しい毎日の中では、物事をじっくりみる余裕が失いがちである。しかし、一見変わらないように見えても、見えないところでは、今日もさまざまな変化が起こっている。だからこそ、ときには立ち止まり、身の回りのものをもう少し丁寧にみていきたいと思うのである。

はやし てるゆき ●甲子園大学栄養学部長・教授

大阪大学理学部卒業、大阪大学大学院理学研究科博士課程修了、博士（理学）。大阪大学、東京理科大学、農業生物資源研究所、奈良先端科学技術大学院大学などを経て、平成27年4月に甲子園大学栄養学部専任講師として着任。准教授、教授を経て、令和7年4月より現職。

おめでとうございます
おめでとうございます

伏木亨甲子園大学特任教授 「瑞宝中綬章」を受章

この度、伏木亨甲子園大学栄養学部特任教授が、令和八年春の叙勲において「瑞宝中綬章」を受章されました。誠にめでたうございます。



今回の受章は、伏木特任教授が長年にわたる教育・研究活動を通じて、農学および食品化学の発展に多大な貢献をされてきたことが高く評価されたものです。

受章の背景と功績

○和食文化の発展と無形文化遺産登録への貢献

日本料理の卓越性を科学的に裏付け、学問領域として体系化させました。「日本料理アカデミー」の設立に参画し、「和食」のユネスコ無形文化遺産登録において、科学的な側面から多大な貢献を果たしました。

○「おいしさ」の科学的解明

マウスを用いた実験や脳科学・栄養化学のアプローチにより、油

脂や「だし」が脳の報酬系を刺激し、「病みつき」になるメカニズムを世界に先駆けて解明しました。

主観的で曖昧だった「おいしさ」を客観的に評価する手法を確立し、「おいしさ学」という新たな学問分野を築きました。

○社会・文化への長年の貢献

和食文化国民会議の会長などを歴任し、おいさと健康の両立を目指した食育活動や文化の普及に尽力しました。

長年の教育・研究活動および食品科学の発展に貢献した功績が称えられ、平成二十六年には紫綬褒章を受章しました。

◆記念講演・特別対談

七月十九日（日）午後二時より宝塚ホテルにて、記念講演を開催します。

テーマは「和食の真価―出汁の旨味が砂糖と油を超えるとき―」及び、伏木特任教授と京都の老舗料亭「菊乃井」三代目主人の村田吉弘氏（日本料理アカデミー理事長）との特別対談。テーマは「和食の真価―京料理の神髄を毎日の食卓へ―」を、二部構成で実施します。特別対談のコーディネーターは、同じく京都の「木乃婦」三代目の高橋拓児氏が行います。

新校長着任



甲子園学院
中学校・高等学校校長
川崎 芳徳

本年度、大変有り難きご縁をいただき、この歴史と伝統ある甲子園学院中学校・高等学校の校長に就任しました川崎芳徳と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。私はこれまで、兵庫県立高等学校等で保健体育科の教員を十六年間、兵庫県教育委員会事務局等教育行政機関に十七年間、そして兵庫県立学校長として七年間勤めてまいりました。

本校に着任以来、この伝統校で

自分が何のお役に立てるのかを考えながら過ごす日々ですが、理事長先生をはじめ皆様に大変温かくお迎えいただき、また、生徒たちのとても気持ち良い日々の挨拶に触れ、出勤が楽しみな毎日を送らせていただいています。

学校は「人づくり」、ひいては「国づくり」の最前線であり、教育基本法第一条には、「教育の目的」が、「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない」と明確に示されています。この目的達成に向け、私たち教員は、人から「先生」と呼ばれ生徒の人格にアプローチし、対価を得るという特殊な立場であります。それだけに、

自分が何のお役に立てるのかを考えながら過ごす日々ですが、理事長先生をはじめ皆様に大変温かくお迎えいただき、また、生徒たちのとても気持ち良い日々の挨拶に触れ、出勤が楽しみな毎日を送らせていただいています。

常に研究と修養を重ね「魂」を磨き、自らを高める努力を継続しなければならぬと考えています。また、「人づくり」を生業とする立場ゆえに、今この時の我が国の繁栄と平和が、先人の並々ならぬご努力とご苦労の賜であることを決して忘れてはならないと考えており、高野山での甲子園学院物故者慰霊塔参拝や、英霊の御霊に思いを寄せる靖国神社参拝など、失われつつある大切な「心の教育」に、本校が取り組まれていることに深い感銘を受けています。この名門、甲子園学院中学校・高等学校のさらなる発展に、微力ではありますが、皆様と一丸となり尽力いたす所存です。何とぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

高野山慰霊塔参拝

学院創立記念日の五月一日、高

野山の学院物故者慰霊塔参拝が行われました。今年度は雨模様でしたので、金剛三昧院のお堂でお参り



しました。

金剛三昧院・久利康彰導師の読経の中、理事長及び法人・各校園教職員と翠柳会（学院各

学校卒業の学内職員の会）会員の計五十一名が焼香を行いました。



慰霊塔は久米長八校祖と、久米利男前学院長をはじめとして学院関係者の霊を合祀し、永くご冥福をお祈りするとともに、先人に対する報恩感謝の心を捧げることにより、青少年期において宗教的情操を陶冶し、生きる意義を考えることを目的としています。

また、小学校、中学校、高等学校、短期大学、それぞれの児童・生徒・学生は在学中に学校行事の一環として毎年慰霊塔に参拝し、建学精神の実践を誓っています。本年、鈴木崇由氏を新たに合祀し、合祀者は百二十九柱になりました。



花壇の花が咲き、子どもたちをお祝いしているかのような暖かな春の日、新しく入園を迎えた子どもたちと、満三歳児クラスから進級した子どもたちの入園式が行われました。

保育室で担任から名札を付けてもらい、自分の持ち物を置くロッカーの場所やマークシールを確認してから、保護者と一緒にホールへ行きました。保護者と離れて座るときに少し不安そうな表情でしたが、園長先生のお話や先生たちの紹介を最後まで聞いていました。



年長組のお兄さん、お姉さんたちによる幼稚園紹介では、滑り台やプーさんなどのペープサートが出てくるたびに目を輝かせて嬉しそうに見ている表情がとても印象的でした。最後にみんなで「チューリップ」の歌を歌って、入園式が終わりました。

入園式後、保育室へ移動した頃にはすっかり緊張もほぐれて、笑顔も見られ、明日からの幼稚園生活を楽しみにしている姿がうかがえました。



昨年度、年中時の秋に、子どもたちが畝にうすいえんどうの種を蒔き、毎日世話をしてきました。ある日、小さな緑の芽が出てくるのを見つけた。「あ！芽が出てくる！」と大喜びでした。春休み中もすくすく育ったうすいえんどうは「前回は私と同じくらいの高さだったのに、抜かされちゃった」と言うほど大きく育ちました。



「五月の空に自分たちで作った鯉のぼりをあげよう！」とクラス毎に大きな鯉のぼりを共同制作しました。はじめに絵本でこどもの日の由来を知りました。鯉のぼりの大きなお腹をくぐって親しんだ後は、年少組はバス、年中組はサインペン、年長組は絵の具を使い、うろこ作りをします。それをクラスカラーの鯉のぼりに貼り合わせ、出来上がりです。早速、保育室に飾ると「僕の作ったうろこはどれ？」「いろんな色があつておし



やれだね！」と世界で一つのオリジナル鯉のぼりの完成をクラス皆で喜びました。

年長組になってやっと収穫となり、自分たちで豆を取り出します。初めてサヤを開く子どもは大苦戦していましたが、豆が見えると「やった！できた」と嬉しそうに取り出していました。豆が取り出せたら、炊飯器の中に米と一緒に入れてスイッチオン！できあがり！待ち遠しい子どもたちでした。お昼になり、いよいよ豆ご飯をいただきます。時間がきました。「おいしい！」「先生、おかわりある？」と自分たちで育てた豆でつくった豆ご飯という特別なご飯をあつという間に完食してしまいました。食べ物に興味や関心をもつ機会となりました。



四月に入園式を行ってから、毎日元気いっぱい！に過ごしている年少組の子どもたち。園での生活にも少しずつ慣れ、友だちや先生の顔を覚え、名前前で呼び合う姿が見られるようになりました。

五月になり、初めての絵画制作をしました。新しいピカピカのバスを使って「自分の顔」を描きました。担任の「目はどこにあるかな？」の問いかけに、自分の顔を触ったり友だちの顔を見たりして「ここにある！」と確かめていました。描き始めると「目は黒で描く」「ほつぺたも描

春の遠足(年中組) 五月二十五日
待ちに待った遠足。延期になっていたので「やっと晴れた！」「今日は絶対に行けるね！」と登園するなりそんな言葉が飛び交い、なんだかソワソワと落ち着かない様子。いざ準備をする時間になると、素早く、テキパキと準備を始めました。キッズガーデン



ンに着くと広々とした場所や様々な遊具が目がくぎ付けでした。他の団体も少なく、友だちを誘って総合遊具で遊びを一緒に考えたり工夫したりしながら、のびのびと遊ぶ姿が見られました。「これは難しいから無理かも？」「手伝わて！」と言っていた遊具にも、友だちがやっているのを見たり繰り返し挑戦したりしていくうちに「二人で出来るようになったから見て！」と、自信満々の言葉に変わっていききました。

いたよ」と時折、自分の顔を確認しながら夢中になって描く姿が見られました。隣にいる友だちの絵を見て「髪の毛かわいいね」「わたしもほつぺた描く！」と楽しそうに見せ合っていました。一つひとつ新鮮な気持ちで経験を重ねていく子どもたちの姿を見守り、幼稚園が楽しいと思えるような保育をしていきます。



はつらつ二年生

○入学式・昼食会 (四月九日)

暖かな日差しを浴びて桜が咲き誇るうらかな日、第七十六回入学式が行われました。

六年生に手を引かれ、新一年生が緊張と期待を胸に入場すると、会場は大きな拍手と手拍子に包まれました。お祝いの言葉に丁寧にお礼を伝え、担任からの呼名には大きく元気な返事が響きました。二年生からプレゼントされた花束



食堂試食会

四月二十七日

参観(公開)

授業前のお昼休み、食堂で保護者の皆様に「食堂試食会」を行いました。日頃児童たちが食べてい



を抱える子どもたちの表情は、誰もが輝く笑顔でした。その後、食堂で開かれた和やかな昼食会では、先生方からお祝いの言葉と自己紹介があり、優しい先生たちとさっそく打ち解ける姿も見られました。

○親子の集い (四月二十一日)

素晴らしい晴天の中、イネーブルガーデンで「親子の集い」が開催されました。ランチのあとは、広々としたガーデンでの自由時間。パイナップルやメダカ、たくさんのハチなど、自然の生き物に興味津々。また、色とりどりの花に囲まれたフワフワの芝生の上を思い切り走ったり、寝転んだり楽しい時間を過ごしました。



ガーデンの花を使ったフラワーケーキ作りにも親子で挑戦し、世界に一つだけの素敵な作品を完成させました。

るものを保護者の方にも味わっていただくという企画です。日替わりランチやカレーライス、かつ井、きつねうどん等を、児童のみならず和やかに食事する姿に、「甲子園ファミリー」の温かさを感ずることができました。

林間学校

五月十三・十五日

○高野山・奈良県天川村

二・五年生は和歌山、奈良方面へ。高野山の金剛三昧院で昼食をいただいた後、奥の院にある学院物語者慰霊塔に参拝しました。校祖先生はじめ学院関係物語者の方々に、感謝の気持ちを伝え、学校での頑張りを報告しました。天川村の一日目の夜はキャンプファイヤー。様々なゲームで心から楽しみました。二日目は緑豊かな自然の中のハイキング。疲れ

すばらしい先輩たち

吉栖 和秀

第五十七期生

滋賀医科大学卒

滋賀医科大学附属病院

研修医



小学校卒業後、洛南中高を経て滋賀医大に入学。現在は滋賀医科大学附属病院にて研修医二年目として勤務しております。多くの学びを得られる環境で充実した研修生活を送っております。

今回「素晴らしい先輩」と銘打ったコラムにご記載いただける運びとなりましたが、やっぱりかぶりしていた小学校時代からは考えられない、身に余る光栄だと思っております。今ではある程度まとりな大人には育ちましたが、これ

も吹き飛ばす美しさでした。三日目は東大阪市の「ドリム21」でプラネタリウムの見学や科学の学習を行いました。たくさん思い出ができた三日間でした。



○ユニピアささやま

青空の下、一・三・四・六年生は篠山方面へと出発しました。初日は有馬富士公園での自然散策と顕微鏡観察、三田市ガラス工芸館でのサンドブラスト体験を楽

もひとえに恩師の先生方が悪さばかりしていた私を見捨てず、寛容に(時に厳しく)ご指導くださったからだと自覚しております。この場をお借りして深く御礼申し上げます。

先日二十五歳を節目として五十七期生の同窓会がありました。生徒たちだけでなく、小学校でお世話になった先生方や保護者の皆さままで、大勢が集う活気のある会でした。小学校時代の思い出や近況など、話題が尽きない楽しい時間を過ごしました。小学校の同級生とは今でも年に一度は集まる仲で、良い学友に恵まれたなど実感しております。

しみ、夜はキャンプファイヤーで盛り上がりました。二日目はオリエンテーリングや焼き板作りに挑戦。飯盒炊爨では六年生がカレー作りを行い、夜のナイトハイクでは美しい星空を堪能しました。最終日はフィールドアスレチックに元気いっぱい挑戦。様々な班活動を通じ、学年を超えた絆が一段と深まる充実した三日間となりました。



今思い返してみても、よく学びよく遊んだ六年間でした。習熟度別算数授業で難しい問題を解くことを競い合ったり、家庭科クラブで裁縫に励んだり、オーディションまであった学習発表会の演劇を熱心に練習したりと、毎日がやることに満ちあふれていました。校庭や中庭にとどまらず、廊下や階段、帰り道までもが、友人たちとの遊び場になり、毎日楽しかったです。この恵まれた環境で小学校の六年間を過ごせたことは、私の人生の大きな財産となりました。末筆ではございますが、思い出あふれる甲子園学院小学校の益々のご発展をお祈り申し上げます。

入学式

四月八日、令和八年度の入学式が講堂で挙行されました。雲一つなく晴れ渡った素晴らしい天候に恵まれ、絶好の入学式日和となりました。



式には、久米知子理事長先生をはじめ、ご来賓の方々並びに保護者の皆様など多数の方々にご参列いただきました。校長式辞の後、中学校と高等学校の代表生徒が「私は入学に際し、甲子園学院中学校・高等学校の教を良く守り、勉学に励み、学院生徒としての自覚と誇りをもって自己の向上に努めることを誓います。」と宣誓を行いました。新入生一人ひとりが、自らの目標をしっかりと持ち、充実した学校生活を送ってほしいと思います。

式後は各教室に戻り、教科書配付、担任からの所信表明、宣誓用紙への署名、クラス写真の撮影などを行いました。当初は不安や戸惑いの表情も見られましたが、教室を後にする頃には、新しい学校生活への期待に胸を膨らませた明るい表情へと変わっていました。

対面式・墓参・校舎見学 部活動紹介・自転車安全講習

四月九日に対面式、校舎見学、墓参、自転車安全講習、部活動紹介を行いました。

対面式では、新入生と在校生が初めて顔を合わせました。最初に校長から話があり、その後吹奏楽部の歓迎演奏、在校生代表から歓迎の言葉、新入生代表から誓いの言葉がありました。最後に生徒会から各クラスに花束の贈呈を行いました。その後、新入生は校祖先生のお墓にお参りし、入学したことのご報告と学院生活への意気込みを伝えました。



道路交通法が改正され、自転車の乗り方に注意が必要になりました。中学・高校では約六割の生徒が自転車通学をしています。西宮警察署の協力を得て、全校生徒を対象に自転車交通安全講習会を行いました。午後からは体育館で新入生に向けての部活動紹介があり、各部が様々な趣向を凝らし新入生にアピールをしました。部活動を体験することで、より一層学校生活が充実することを期待します。

宿泊研修 高校一年

五月十八日から二泊三日で宿泊研修を行いました。宿泊先はグランドニッコー淡路です。一日目の研修内容は体験型SDGs研修とテブルマナー講座でした。体験型研修では「当たり前」に焦点を当て、問いかけることで生徒の問題意識が活性化されていました。テブルマナー講座は正しい作法を学びながら、楽しい食事会となりました。



二日目は午前には職業体験としてベッドメイキングとテーブルセッティングを教わり、自室のベッド、昼食で使用するテブルの準備をしました。午後からは明石海峡公園での散策を楽しみました。自由活動でスワンボートに乗る生徒もいました。最終日は学年全体でのレクリエーションと淡路ハイウェイオアシスでの昼食を楽しみました。三日間を通して、今まで考えていなかった、未経験だったことに取り組むことができました。また、新しい人間関係の構築、自己の形成をする貴重な機会になりました。

春季校外学習 USJ

中学、高校一・二年

四月二十八、中学生と高校一・二年生は春の校外学習としてユニバーサル・スタジオ・ジャパンを訪れました。当日は天候にも恵まれ、生徒



たちは班ごとに園内を巡り、さまざまなアトラクションやショーを楽しみました。

高野山慰霊塔参拝

高校三年

初夏の陽気も感じられた四月二十八日、新緑に包まれた高野山において、恒例の学院物故者慰霊塔参拝を行いました。早朝より二台



のバスに分乗し、一路高野山を目指しました。途中休憩を挟みおよそ三時間の行程でしたが、行事の目的を鑑み車内では静かに過ごしました。高野山では凛とした悠久の歴史を感じられる空間の中、手水舎にて身を清め慰霊塔へと歩みを進めました。久米長八校祖先生、久米利男前学院長先生をはじめとする学院の歴史を築いてこられた先人への報

事前に立てた計画をもとに、集合時刻や行動のルールを意識しながら、互いに声をかけ合って行動する姿が見られました。人気のアトラクションでは待ち時間もありませんでしたが、その時間も友人との会話を楽しんでいます。また、多くの来場者が集まる場所でも活動では、公共の場でのマナーや周囲への配慮についても学ぶことができました。普段の学校生活とは異なる環境で交流することで、学年やクラスの仲間との相互理解を深めることができました。新しい仲間の新たな一面を知り、今後の学校生活への期待を高める貴重な一日となりました。

恩感謝の気持ちを込めつつ、進路実現に向けての決意を新たにすべく、心を込めて参拝しました。参拝後には、名残の桜と咲き始めた石楠花に迎えられて金剛三昧院へと移動し、精進料理をいただきました。その後、少しの時間でしたが、周辺を散策し各々がお土産を購入するなど充実した時間を過ごし帰路に着きました。

吹奏楽部 定期演奏会

五月十六日、兵庫県立芸術文化センター大ホールにて、第二十回定期演奏会が開催されました。

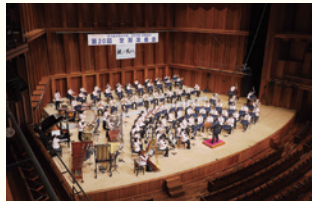
記念すべき第二十回は初めてとなる芸術文化セン



ターでの演奏会でした。多くのお客様に感動をお届けしたいという思いを胸に、部員たちは数々の課題を乗り越え、仲間との絆をより一層深め、演奏会当日を迎えました。チケットは完売し、約一七〇〇名ものお客様に演奏を届けることができました。

第一部「クラシックステージ」

では、交響曲第一番「悪魔の聖書」を一曲目に演奏しました。重厚感と緊張感あふれるサウンドで、会場を一気に作品の世界へ引き込みました。続いて、NHK交響楽団首席クラリネット奏者の松本健司氏をゲストにお迎えし、「クラリネット協奏曲」



を演奏しました。松本氏の豊かな伸びやかな音色と吹奏楽部のサウンドが重なり合い、会場は温かな音楽に包まれました。

第一部最後の曲では、指揮者の

甘粕宏和氏をゲストにお迎えし、「Crossfire 2023 ed. November 22

J・F・K」を演奏しました。甘粕氏と共に創り上げた音楽を全力で会場に響かせ、演奏後には大きな歓声と拍手に包まれました。

第二部「ポップスステージ」

では、第二十回特別企画「KGBの歴史を巡って」を上演しました。手作りの衣装や曲に合わせた演出など工夫を凝らしました。アンコールを含め九曲を披露する盛りだくさんのプログラムとなり、会場は終始大きな盛り上がりを見せました。

「LOVEマシーン」では、部員が元氣いっぱいダンスを披露し、会場には自然と掛け声が響きました。「全力少年」では小・中学生と共に演奏し、音楽を心から

楽しむ姿が印象的でした。そしてアンコールでは、七十名を超える卒業生と共に「宝島」を披露し、迫力あるフ

イナールとなりました。今回の定期演奏会を通して、日頃から支えてくださる方々への感謝

の気持ちを改めて実感するとともに、先輩方が築き上げてきた伝統をこれからも大切に受け継いでいきたいという思いが、部員一人ひとりの中でより強くなりました。

修学旅行

高校二年

六月二十二日～二十六日の五日間、東京・北海道方面へ修学旅行に行きました。

一日目、東京では厳肅な雰囲気

のもと靖國神社の参拝を行い、続いて遊就館を見学しました。戦争に関する資料や遺品に触れ、平和の尊さについて改めて考える機会となりました。その後、オープン



トップバスに乗り、東京タワーや

レインボーブリッジなど東京の名所を巡りました。

二日目は北海道に飛び、函館市

内を班ごとに散策しました。気温は少し肌寒く途中雨にも見舞われましたが、班別研修では皆元気に五稜郭や赤レンガ倉庫を見学したり、新鮮

な海鮮丼を味わったりと、それぞれの班で充実した時間を過ごしました。

夕食後には、函館山から世界三大夜景の一つとされる絶景を楽しみました。

三日目は北海道ルスツリゾート



体育大会

五月二十九日、快晴の中、体育大会を行いました。開会式では川崎校長から生徒たちに向けて、「勝負は一瞬、努力は一生」という貴重な格言をいただき、どのような結果だったとしてもそれまでにクラスや学年で協力したことや努力したことが財産になると伝えていただきました。競技が始まる

とどの学年も力を合わせて競い合い、大いに盛り上がりました。学年対抗リレーでは教員チームも参



加し、生徒たちと白熱したリレーを繰り広げました。最後のプログラムには恒例となった仮装行列を行い、さまざまな工夫で担任を仮装させてい

ました。昨年度よりも来場された保護者が増え、生徒たちだけでなく保護者の方々も楽しむことができました体育大会になりました。

ホテル&コンベンションで体験学習を行いました。

マウンテンバイクとアイス・生キャラメル作りの二班に分かれ、それぞれ北海道ならではの自然や食文化に親しみました。仲間と協力しながら活動することで多くの笑顔が見られました。

四日目、午前のラフティングでは、班ごとに尻別川を下りました。

水しぶきを浴びながら力を合わせてボートを漕いでい



ました。午後は、ニセコジップラインとHANAZONOゴンドラ・高橋牧場の二班に分かれて活動しました。日本最長のジップラインでは、北海道の大自然の中、壮大な景色を眺めながらワイヤーロープで滑走し、スリルと爽快感を満喫しました。

最終日は小樽を班別で観光しました。小樽運河を散策したり、オルゴール館で自分好みのオルゴールを探したりするなど、北海道の歴史や文化に触れながら最後まで充実した時間を過ごしました。五日間を通して、仲間との絆を深め、多くの学びと思い出を得ることができた修学旅行となりました。

令和八年度 全学交流会

六月二十六日、学院中高体育館において学友会主催の全学交流会が開催されました。

昨年は全学生を四つのチームに分けてミニ運動会を行いました。今年の内容については楽しく身体を動かして、皆が楽しむことのできるプログラムにしようということと検討しました。実際にいくつ



かの種目を体験してみ、試行錯誤の結果、ソフトバレーボールをアレンジャーで行うことになりました。学生

全員をくじでA、B、Cの三チームに分け教職員有志も加わり、リーグ戦形式でゲームを進めることになりました。初めに学生たちがよく知っている「エビカニクス」で準備運動を行いました。ソフトバレーボールは、大きめの柔らかく軽いゴム製のボールを使用するもので、当たっても痛くないために子どもから高齢者まで初心者でも気軽に楽しめる生涯スポーツとして親しまれています。ほとんど全員が初めて体験するスポーツでしたが、ボ

ルが柔らかく恐怖感もないため、楽しい雰囲気でも盛り上がりました。



練習する時間はわずかでしたが、にわかにわかつたチームでも、それぞれゲームが進むにつれてチームワークも良くなつていき、楽しく白熱したゲーム展開となりました。終了後にはアイスクリームで全員がリフレッシュできました。普段の授業では見られない表情や頑張りが見られ、全員が心地よい楽しい時間を共有できました。

短期大学六十周年の 歴史を振り返る

☆社会で活躍している卒業生☆

昭和五十一年度卒業
初等教育科四期生
衣川 益子

甲子園短期大学の初等教育科に兵庫県北部から入学して、寮生としてお世話になりました。入学した当時は門限六時で、炊事当番、献立作成、栄養価計算など専門科目や実習以外にも学びの機会が多くあり、現在の生活や仕事にも役立っていると感じています。来客の対応マナーも、業者の方

に「ご苦労様でした」と言うのはだめで、「配達ありがとうございます」と言うことなど、その場に合った言葉の使い方を教えていただきました。その頃は前学院長先生、特別顧問先生も折に触れて寮にお越しいただき、楽しく会話しながらかし一緒に食事をしたりして交流をさせていただいた思い出が数多くあります。

それから何十年も経ちました。私は短大卒業と同時に就職した地元の保育園に三十五年間勤めました。在職中の一つの思い出は、学生の時に使っていた童謡のピアノの本です。ぼろぼろになるまで使いつづけていたことが懐かしく思い出されます。

退職後は、卒園児から、「子育て中の母



NPO法人子育て支援団体「りとるめいと」HPより

親の悩みを聞いてもらえる場所がほしい」と相談され、NPO法人の子育て支援施設を立ちあげました。市の委託事業で、お母さん達が相談できる場所や病児保育センターなどを運営しています。最近ではこども食堂も月二回行っています。これも甲子園短期大学で勉強させていただいたからできたことと深く感謝しております。

イネーブルガーデンの四季



春、鮮やかなパンジーやチュリップ、ネモフィラ等の花に加えて、イチゴやエンドウ豆、ソラ豆が実り、春の香りが満ちています。

夏、紫陽花や夏野菜、ハーブ類も大きく育ち、レモンクラスやミント系をたっぷり入れたハーブティーを楽しめます。

秋、大学祭でサツマイモ掘り体験をします。イネーブルガーデンは大学祭を通して、地域貢献の場でもあります。

幼児教育保育学科 教育実習 報告

五月二十五日から三週にわたって、幼児教育保育学科のⅡ回生が幼稚園や認定こども園で教育実習を行いました。短大の授業で学んできた知識や技能を基礎として、実際の保育現場で子どもたちと関わり、総合的に実践しながら身に付けていきます。これまでの保育実習Ⅰと違うのは、責任実習が必ずあることです。教育実習に行く前の学生からは「責任実習やピアノの課題があるので心配ですが、頑張ります」という声が聞か

れました。実習を終えた学生からは「子どもたちとの時間は楽しかったです」「最初は緊張したけれど、子どもたちが話しかけてくれて、最後はまた遊ぼうねと言ってくれました」など、子どもたちと関わる中で悩んだり、考えたり、感じたりしながら、たくさんの方を学んできたようです。

実習生を受け入れてくださり、温かくご指導をいただきました実習園の皆様、ありがとうございました。学生たちは、八月終わりに始まる最後の実習に向けて、教育実習での経験をもとに、さらに学びを深めていきます。

入学式・新人生歓迎会

四月二日、令和八年度入学式を執り行いました。新しいスーツを身にまとった新入学生は、緊張の様子の中にも期待に満ちた表情で式典に臨んでいました。式典が始まる前には甲子園大学



学歌を全員で練習し、本番ではしっかりと学歌を歌うことができました。「山脈遠く花霞む」甲子園大学で、これから始まる学生生活

に希望を持ち、そして誇りを持って過ごしていただくことを期待します。



四月八日には、在学生が主体となって新入生歓迎会が開かれました。学生自治組織の甲友会を中心に、サークル紹介などが実施されました。吹奏楽サークルは演奏を披露し、「未経験者も大歓迎です。ぜひ一緒にサークルに参加しませんか。」と新入生へ呼びかけました。新入生の中には早速「学生広報か甲友会に入って、活動してみたい。」と嬉しそうに話す学生もいました。

「ビーンズサワー」復活プロジェクト

栄養学部では、兵庫県丹波篠山市地域活性化センター「黒豆の館」、西紀北小学校、生産者の方々と連携し、かつて地域で親しまれていた清涼飲料「ビーンズサワー」の復活に取り組んでいます。本プロジェクトは、地域資源である黒大豆の活用と、世代を超えた学びの創出を目的とするものです。

活動は荒井眞一教授を中心に、檉野いく子准教授、井崎信和助教ら教員と学生が参画し、地域と協働して進められています。小学校



の総合学習では、児童たちがかつての製造者の方の助言を得て伝統の再現に挑戦しました。本学は栄養学的な視点からも講義や実習支援を行い、学びを後押ししています。調理実習で黒豆の煮汁にクエン酸を加える

スポーツ栄養学 オンライン特別講義

三月十二日、栄養学部栄養学科のスポーツ栄養コース科目の「スポーツ栄養学演習」の授業内で、栄養士の田中麻由美先生の特別講義を実施しました。



田中先生は現在、実業団の陸上長距離選手や、大学駅伝部の栄養サポートにかかわっておられます。オンライン形式の講義では、どのように選手への栄養サポ



と、黒かった煮汁が鮮やかな赤紫色へと変化し、児童たちの歓声が広がりました。現在、大学では商品化に向けた検討を進めており、原材料調達や製造体制の整備を図っています。本取り組みは、学生にとって地域の活性化や環境負荷の低減に関する実践的な学びの機会であると同時に、地域の歴史や食文化の継承にも寄与するものです。今後も教育と地域貢献を両立させる活動として発展させたいと考えています。

「Pairふれんど」説明会

四月十六日、宝塚市教育委員会の担当の方を本学にお招きして、心理学部の一・二回生に向けた「Pairふれんど」募集の説明会を開催いたしました。「Pairふれんど」とは、様々な理由で不登校になっている子どもたちに寄り添って、おしゃべり、運動、音楽、学習などの多様な活動を一緒に進める宝塚市の大学生ボランティアの活動です。説明会では「Pairたからづか」にどのようなお子さんたちが来られるのか、そこでの関わりを通して何をめざすのか、ご自身の経験をもとに具体的に活動内容を語っていただきました。

子どもが好んで将来的に対人援助

大学院入試勉強会

心理学部

昨年十一月より、心理系大学院進学希望の学部生が中心となり、大学院入試勉強会を始めました。新年度に入り、活動場所を七号館二階のラーニング・コモンズに移し、毎週金曜日の五時間目の時間帯に、自主勉強会を開催中です。現在、学部の三年生が七、八名ほど集まっています。ラーニング・コモンズには大学院入試に必要な、キーワードまとめ、心理英語、論述、過去問などの教材コーナーを設置しています。

参加者は必要な教材を適宜準備して各自で課題に取り組んでいます。ラーニング・コモンズが利用できる時間帯であれば金曜以外にも利用可能です。定期的な複数で集まって活動することで、励まし合って、少しずつでも一緒に前進できる、そんな時間になっています。ここでの学びは大学院進学後も、心理職として活躍するための知識の素地となることでしょう。

助職に就くことを目指している学生にとって、有益な経験になることは間違いないと思います。実際に、すでに心理学部の中にも「Pairふれんど」として活動している学生がいます。これを機にさらに多くの学生が応募してくれることを願っています。

学院生の活躍

(○数字は開催月)

中学校バレーボール部

- ④西宮市中学校市民体育大会バレーボール競技大会 **優勝**
 ⑦阪神中学校バレーボール男女優勝大会 **優勝**



中学校剣道部

- ④西宮市民大会剣道大会
 ◇中学一・二年生女子の部
優勝 小西 遥
準優勝 小室 美緒莉
3位 関戸 陽菜里
3位 合田 栞
 ◇中学三年生女子の部
優勝 笹川 能乃美
高等学校剣道部
 ④西宮市民大会剣道大会
 ◇高校女子二段以上の部
優勝 三葉 礼
準優勝 木和田 なつめ
3位 西馬 和花
 ④阪神地区高等学校総合体育大会
団体 優勝

個人 **優勝** 三葉 礼

⑥兵庫県高等学校総合体育大会(剣道大会)

団体 **優勝**

個人 **3位** 難波 ひいな

(近畿大会個人戦出場)

◇七月に神戸市で開催される近畿高等学校剣道大会、八月に奈良市で開催される全国高等学校総合体育大会(インターハイ)には、団体戦で出場が決定しています。

三葉礼主将は「昨年に続き、二年連続のインターハイ出場を果たせました。昨年の大会では悔しい結果に終わったため、最終学年となる今回は個人・チームともに悔いが残らぬよう全力を尽くします。日頃の練習の成果を発揮し、目標である上位進出に向けて突き進みます。」と力強く意気込みを語ってくれました。



吹奏楽部

- ③近畿広域吹奏楽交流会
 大編成の部 **尼崎市教育長賞**
 フルートソロ **審査員特別賞**

制服・私服

併用可能

中学校・高等学校では、九月七日より、式典及び考査等を除き、服装を「制服・私服併用可能」とし、気候・天候や心身の状況、放課後のスケジュールなどTPOに応じて適切に選択する取組みを開始します。



令和8年6月29日
 神戸新聞朝刊

「勤勉努力」を具現化し、「決められたことを、ただ守っていればよい」ではなく、道徳倫理を身につけ、適切な行動・選択が取れるよう人格形成を図ってまいります。生徒の感想では「体調や気候に合わせて、細かく服装を調整できるのはうれしい」「自転車通学のとき、パンツ着用であれば安心」「私服だとこまめに洗濯できるので、気持ちよく着用できるのがいい」など好意的な意見が多くあります。



本年度のオープンスクール等

高等学校 中学校 0798-65-6100	8月22日 土	9:00～12:30	オープンスクール「プログラム」 ○学校紹介 ○部活動見学・体験 ○制服試着 など
	9月13日 日		
	10月17日 土		
	11月28日 土	10:00～12:00	○入学試験説明会・入試対策講座
	12月5日 土	10:00～12:00	○入試個別相談会
	12月12日 土		
小学校 0798-67-2366	9月18日 金	13:10～13:55	○公開授業・個別相談会
	12月19日 土	9:30～11:45	○ウインター体験学習
	1月29日 金	13:10～13:55	○公開授業・個別相談会

役職人事

異動

法人事務局顧問

採用

中学校・高等学校長
 川崎 芳徳
 (四月一日)
 宮島 隆之
 (四月一日)

園の輪

そののわ No.193

令和8年7月9日発行

学校法人 甲子園学院

〒663-8107 西宮市瓦林町4番25号

TEL. 0798(67)2100

FAX. 0798(67)5488

あ того が き

◆編集委員の一部が変わりました。今年も編集委員一同、学院各学科園の様々な活動の紹介に努めてまいります。皆様のご意見やご感想をお待ちしています。

◆もうすぐ一学期が終わり、夏休みに入ります。長期の休みですが、健康に留意しながら規律ある生活を心がけたいものです。

令和8年度 園の輪編集委員

西井 敏行	坂田 玄以	西田 和隆	澤井 朋世	加賀 良彦	檜垣 康太	中野 久美子	永藤 清子	片島 万里恵	浅井 航洋	高橋 延行	吉田 光男
(法 人)	(法 人)	(法 人)	(幼稚園)	(小学校)	(中 高)	(中 高)	(短 大)	(短 大)	(大 学)	(大 学)	(大 学)